

コロナによる緊急事態宣言下での活動



第1病棟

第1病棟では病棟南側に作った畑で野菜を沢山作りました。

初夏にはジャガイモ、夏本番にはキュウリやトマト、ナスや枝豆などを収穫しました。枝豆の収穫では枝豆の茎に結んだ紐を利用者さんに引張ってもらい収穫を楽しみました。秋になってからはサツマイモの収穫を楽しみました。サツマイモの茎にも紐を結んでみんなに引張っていたできました。その様子を見て、ある方は大喜びされたり、ある方はニコニコしておられました。たくさん収穫できました。

花ノ木

第 111 号

令和3年11月28日

花ノ木医療
福祉センター

電話 0771-23-0701

FAX 0771-22-8348

第1病棟

第2病棟では、移動型のナノミストバスを通所から借りて居室で入浴したり、居室で洗髪ができるヘッドスパを購入して、快適に過ごしていただける取り組みを実施しています。



採れた野菜はいつも給食に持って行き、美味しい料理にいただきます。「いつ出てくるかな」と利用者さんは楽しみにされており、出てきたときには「美味しい」と言いながら食べておられます。

次は相撲大会が待っています。みんなで楽しい時間を共有できるようにしていきたいです。

緊急事態宣言もあり、距離を取りながらの活動が続いていますが、その中で工夫をしながら楽しい時間を作っていききたいと思います。

(生活支援員 伊津由美)

ナノミストバスは、ボディソープ無しで超微粒子ミストがしっかりと汚れを落とし、体に残った汗をタオルで拭き取ることで体を綺麗に保つ優れものです。ヘッドスパも同様にシャンプーが無くてもミストが髪の毛の間に入り込み、ふけや汚れを落としてくれます。しかも2ℓほどの少量のお湯で十分足りる為、節水効果抜群です。若干通販番組の宣伝みたいになりましたが、頭皮を洗っている時の利用者さんとはとても気持ちよさそうです。

コロナ禍では、集団活動を自粛し個別での活動が主でしたが、緊急事態宣言解除後は、徐々に集団活動を開始しています。



今年度は外出活動も亀岡市や南丹市をドライブするのが、利用者さんのニーズにお応えするのが難しい状況ですが、病棟の中でも楽しめる活動としてデザートバイキングや旅行気分を味わえる撮影スポット等、いろいろ検討している最中です。利用者さんの笑顔がたくさん見られる取り組みができるように頑張りたいと思います。

(生活支援員 西村雅年)

第2病棟

長引くコロナ禍の中、外出活動ができない期間でもあり、集団活動も個別活動として実施してきました。

爽やかな風が吹く秋晴れの日、中庭の花壇も元氣一杯に色とりどりに花を咲かせています。中庭ウッドデッキで少人数の利用者が、ギター演奏を聴いて楽しんでいます。またレジャーシートに寝転んでシャボン玉と高い空を眺める活動等も実施してきました。心地よい日差しと澄んだ空気に触れ、穏やかな表情でウトウトされる方もおられました。第3病棟ならではの家庭を活用したひと時を過ごされています。しっかりと外気浴をされた夜は、普段、早起きの方も朝までぐっすりとして休んで下さいました。

音と映像の活動は、皆さん興味津々！壁の映像に集中して、実際に手で触れる(映る)と驚いて目を丸くされ、時には真剣な表情で映像を追いかけて楽しんでおられました。この約1ヶ月間は、利用者一人ひとりが好きな事や得意な事を、短時間でも場所を変えて思い思いに楽しんで



頂こうと取り組んできました。

今後も利用者の皆様と職員が一对一で向き合い寄り添う時間を積み重ね、利用者に毎日の生活を安心して楽しく過ごして頂く為に、環境や楽しみ方の方の工夫を重ね、毎日の生活の中に潤いのある過ごし方を実施していきたいと思っています。

(生活支援員 大西裕理)

第五病棟

第五病棟では、来年就学を迎える幼児の保育活動を週2回行っています。

就学に向けて生活リズムを整え体力をつけること、様々な経験をして人との関係や心身の感覚を養うこと、好きなことや得意なことを知ること、を目的として季節に合わせた遊びやリハビリからのアドバイスも参考に、本人ができることを生かした内容を考えています。見通しを持ちやすくするため同じ曲を使って同じ流れで行い、プールでの水遊びや、小麦粘土で月見団子を作ったり、フラワーペーパーを丸めたりんごを引つ

張つてりんご狩をしたりしました。回数を重ねるうちに、始まりの曲が流れるとパチッと目を開け、挨拶の歌



や名前呼び

では笑顔を見せてくれます。とりわけ名前呼びでは、声

だしや腕を挙げて返事をしようとし、こうした変化を見て継続した活動の大切さを実感しています。特に乳幼児期の活動はその後の身体面・精神面の発育につながると考えています。病棟には他にも3人の乳児がおられ4人で「にじいろ」としてグループを作っています。



今はコロナ禍やそれぞれの体調で一緒に活動は難しいですが、それぞれに好きなこと、表情の表出が見られるようになりました。今後、一緒に活動できる機会を増やし、保育活動を定着させていきたいと思います。

(生活支援員 大西真紀)

はなのき通所

今年度5月から6月上旬にかけて外出を計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の延長で中止とさせて頂きました。その代わりとして、花ノ木周辺にある愛宕道の道標や「愛宕灯籠」など花ノ木の周辺にある地元の歴史を見つける散策に出かけました。

月読神社方面のグループは、愛宕灯

籠を2ヶ所見

つけ、少し足を伸ばして千

代川小学校の正門の謂れ

(旧亀山城

新御殿門・亀岡市指定文化財)なども見学してき

ました。

湯井方面

のグループは、道標や湯井神社などを見て回り、アジサイや田んぼでオタマジャクシなども見つけました。



日吉台・小林方面のグループは、旧山陰道の道標を見つけました。近くでは花壇などもあり、ゆっくり寄り道しながら散策しました。

普段の散歩で通っている道ですが、千代川町の歴史や景観に興味を持ち注意深く観察すると、新たな発見がいっぱいでした。今回の発見はほんの一部だと思います。

利用者さんの生活も元通りになるにはまだ少し時間がかかるように思います。活動も少し視点を変え、いつもとは違う楽しみ方が出来たと思います。

(生活支援員 八木真希子)

児童発達支援センター

児童発達支援センターおひさまでは、

季節の取り組みとして、世間にすっかり定着したハロウィンをモチーフにした活動をいろいろなクラスで行っています。学年やクラスの状況に合わせて、カボチャやお化け、コウモリなどを描いたり作ったりして遊ぶ、オレンジの花紙で飾りを作ったり、黒いごみ袋でお化けになったりする等、工夫した活動をしています。

写真は、子どもたちが、オレンジの絵の具を手や筆、ローラーで紙に塗り、シールで目やカボチャのヘタを貼りつけたものです。カボチャの枠は職員がクレヨンで描きました。みんなで集中して楽しく頑張りました。



ココはなのきでは、9月15日に避難訓練を行いました。小学生といってもまだ低学年、聞き慣れないサイレンにドキドキしてしまった子もいましたが、みんな事前に勉強したルールをしっかりと守り、落ち着いて避難することができました。花ノ木の本館に放送の音声が入らない機器トラブルもありましたが、日常の訓練をするからこそそのトラブル発見。訓練の大切さを再認識したのであります。

(こども療育係 心理判定員 高橋良子)

***花ノ木にいらっしゃるまでの経歴をお聞かせください。**

小中高と亀岡です。大学は大阪で、卒業後亀岡市役所に1980年から勤めました。上下水道が長く、上水に15年くらいおりましたね。下水のほうにも7〜8年くらい。あとは土木関係の部署などにいました。2018年に定年退職した後、公益財団法人の亀岡市都市緑花協会に3年勤めました。

***花ノ木へはどのような経緯でいらっしゃったのですか？**

大規模改修の計画があり、(建物の)図面などが分かる人が良いということで、声をかけていただきました。私は、建築や福祉関係も全く経験が無いので、「無理ですよ」とは予防線張ってたんですけども(笑)

***法人で、大規模改修に向けてのお仕事をされているということですね。具体的にどのようなお仕事ですか？**

まずは改修の基本構想を作ろうとしているところですね。現在は、基本構想に向けて業者に委託発注をさせていただいて今取り組んでいるところです。

***花ノ木の印象はいかがですか。**

障害をお持ちの方が入所や通所をされているというのは、千代川に同級生もいたので知っていました。どちらかというと、丹波支援学校(分校)の方が、印象が強かったですね。新規採用研修で初めて病棟の中を見学しました。

***花ノ木のことを知っていく中で、何か印象深かったことはありますか。**

医療と福祉が一緒になっていて、他にもいろいろな職種の方が働いておられて、入所だけでなく、通所や児童発達支援セ

ンターなど地域につながる取り組みもされているということが印象的でした。

***抱負をお願いします。**

建物本体は耐震もしっかりしているのでも、内部のことが中心になります。どうしても今稼働している中でやっていかな

シリーズ「この人にきく」

法人事務局 参事 柴田 恒男 さん

今回は、4月から勤務されている柴田参事にお話を伺いました。



いけないなと思っています。

***やはり大きくは入所者の居場所というところですか**

結構時間がかかると思うんですよ。違う場所にポンと病棟を建てるのではなく、今の建物内で少しずつ進めていく予定です。

***基本構想の次はどう進みますか？**

基本設計です。構想は大まかなイメージ。木で例えたら幹と大きい枝、次の基本設計は職員の皆さんのご意見をもらいながら細部の枝葉を加えていきます。

実際の工事では不便をかけると思いますが、入所者の負担をできるだけ少なくして、職員さんたちが仕事をしやすいように考えていきたいです。

***ご趣味や休日の過ごし方は？**

趣味：趣味は特にはないです。兼業農家っていうんです。土日だけお百姓です。田んぼの草刈りばかりしています。そうですね：趣味はとんどないですね。

***若いころとかよくされていたことはありますか。**

時間が余ったら遊戯施設に行ったりはしてましたね。夏とか暑いですが(笑)、でもコロナで今はやめますね。

***ご家族は**

妻と、息子夫婦が別棟で一緒におります。8月に初孫が生まれました。毎日見といたらそんなに思わないですけど、たまによその人に「大きなのはったな」と言われて「そっかな？」と思いますね。もう一人の息子は東京に行って独身です。たまに帰ってきても殆ど友人とどっか行ってる(笑)

「いや、恥ずかしいわ」と言いながら、気さくにインタビューに応じていただきました。

お忙しい中、ありがとうございます。

す。基本構想が固まれば、大規模改修検討ユニットの方々の意見や職員さんの声を取り入れていきます。1〜3病棟は築後24〜5年たっているし、配管もだいぶ傷んで水漏れしたりしていると聞きますしね。やはり改修するからにはこれから20〜30年使えるようなものを作らな

掲示板

「花ノ木でもワクチン接種
がんばりました。」

「3,300人、延6,600件」刻まれたこの数字は、花ノ木が、入所者、職員、一般住民の方々に新型コロナウイルスを接種した延人数とその延件数です。

今回、国をあげてのワクチン接種計画は、優先順位をつけて、順次国民に接種していく事で始まりました。最優先は医療従事者、次いで65歳以上の高齢者、基礎疾患患者、64歳以下の順に設定され、花ノ木職員は最優先の医療従事者に該当し、2回目接種を5月迄に終わりました。

その後、6月からは国が掲げるワクチン接種早期実現に対し、花ノ木としても地域貢献のため施設内に会場を設営し、地域にお住いの65歳以上の高齢者、続いて65才未満の方、最終的には12歳以上の生徒まで、段階的にワクチン接種を10月まで実施しました。地域の高齢者や一般の方々への対応は、普段花ノ木では、あまり無いため、一抹の不安もあり、迎えた接種初日こそ少し混乱しましたが、以降はスムーズに案内できるようになり、ワクチン接種に感謝の言葉を沢山いただきました。また、「亀岡にこんなに大きくてきれいな施設があるとは知らなかった。」等、花ノ木の広報にもなりました。

他方、様々な困難もありました。ワクチン



受付初日から予約電話が鳴り止まず、日常業務を止めて、その対応に悪戦苦闘したこと、-80℃の冷蔵庫の搬入、途中ワクチン供給不足等多難でしたが、なんとか乗り切ることができました。

これら事務的なことも大変ではありましたが、特に所長初め、医師、薬剤師、看護師等の専門職にもご尽力いただき、花ノ木を上げて7ヶ月に渡りそれぞれが役割を分担し、高い意識をもって、公衆衛生活動に参画しました。みなさんありがとうございました。

(事務部長 安部正徳)

花ノ木の動き

(令和三年七月一日〜令和三年十月三十一日)

- 7/7 所内研修「介護報酬改定」
情報発信事業「光るお家のオブジェ作り」
所内研修「理事長講話」
- 11/21 医療管理棟・通園・児童発達支援センター防災訓練
京都中部総合医療センター看護専門学校看護実習
所内研修「決算概要及び経理事務」
- 27/28 情報発信事業「構造化支援について学んでみよう」
京都医療福祉専門学校介護実習(9/18)
- 5/7 所内研修「前期医療安全研修」
京都府医師会看護専門学校看護実習(9/17)
- 9/9 児童発達支援センター防災訓練
情報発信事業「骨折リスクに配慮した介助のポイント」
京都医療福祉専門学校介護実習(10/3)
- 13/15 総合防災訓練(第5病棟)
京都府医師会看護専門学校看護実習(10/1)
- 18/19 新採研修「地域における花ノ木の役割と連携」
明治国際医療大学看護実習(10/15・18・20)
- 27/29 所内研修「中長期計画」
所内研修「感染対策」
京都先端科学大学看護実習
- 10/20 14/6

ありがとうございました

寄附・寄贈 (敬称略)

◎寄贈

棟影板金(消毒液)／塩野忠雄(マスク)／
中澤和子(作業スポン)

編集後記

この仕事を始めて長くなりますが、編集後記を書くという経験がなく、何を書いたらいいのかと考えていると、当たり前ですが、この年になると初めての経験というものが減ってきたように思います。

しかしよく考えると、減ってくるのではなく、そういうことに消極的になっていった自分がどこかにいたんですよ。

その理由は、お金がかかる、時間がない、失敗してしまうという不安などに影響されていたと思います。

ここ数年でいろいろ考える機会があり、仕事や物事の考え方や見方に大きな変化をきたすことがあり、そこから自分自身の思考を変えようと気を付けて生活するようになっていきます。

具体的には、こうなりたいというイメージをとり、リアルにイメージして、そこにたどり着くために行動するというところで、要するに「ワクチン接種の行動を選択する」ということです。言葉では簡単ですが実際の行動となるとなかなか難しい・・・ネガティブな思考に左右されたり・・・

でも最近は、具体的にイメージしてそれに対して行動すれば、本当に実現する方向に向くということを実際に体験しています。

様々なネガティブ思考や情報が流れている世の中で、そこに流されず、自分自身をすべてひっくるめて、その瞬間瞬間でワクチン接種する選択をして行動していきたいと考えています・・・

(編集委員 須藤耕仁)